子どもの養育環境尺度の全国 Web 調査 (1)

子どもの養育環境と発達についての素朴理論

○神前裕子¹・長谷川麻衣¹・平井美佳²・高橋恵子¹

(¹聖心女子大学・³横浜市立大学)

キーワード: 貧困, 乳幼児, 全国 Web 調査, 素朴理論

What children need for their normative development Nationwide web research for What Children Need Scale (WCNS) (1)

Yuko KOUZAKI¹, Mai HASEGAWA², Mika HIRAI³ and Keiko TAKAHASHI⁴

(¹ University of the Sacred Heart, ² Yokohama City University.)

Key words: poverty, poverty, child, nationwide web survey, naive theory

問 題 と 目 的

本報告は、乳幼児が育つための環境の質について発達科学的な知見に基づいたコンセンサスが必要であるという問題意識のもとに検討している研究の最終報告である (第1報告は日本心理学会 75 回大会発表論文集 pp.1055-1057, 第2報告には日本心理学会 大 76 回大会発表論文集 pp.)。

我々はこれまでに、内外の先行研究から乳幼児が育つ環境に必須であるとされる項目を検討し、「子どもが必要とする養育環境尺度」(WCNS: What Children Need Scale)を作成した (ibid.p. 1055)。WCNSは現在 52 項目で構成され、12 領域に分けられる (①食事, ②衛生, ③衣服, ④住まい, ⑤愛情, ⑥世話, ⑦玩具・本, ⑧しつけ・教育, ⑨他者, ⑩外出・旅行, ⑪経済, ⑫環境・施設)。その上で、全国の乳幼児を持つ親を対象としたインターネット調査によって、WCNS の項目が「現在の日本で子どもが健やかに育つために必要か」について保護者が持つ認識を検討し (ibid.p. 1056)、さらに、乳幼児を持つ親を対象に質問紙調査によって WCNS 尺度と子どもの発達のアウトカム (QOL/問題行動) との関係を検討したところ、QOL 尺度は WCNS 合計と有意な正の相関があり、問題行動尺度は WCNS 合計とは有意な負の相関が見出され、本尺度の妥当性が確認された (ibid. p.1057)。また他の世代 (大学生/高齢者) への調査も実施し、年齢性別に関わらず WCNS 項目への必要性を認識していることを確認した。

本研究はわが国における子どもの養育において必要な環境はいかなるものかについての最終的なコンセンサスを確認することを目的とし、全国の成人を対象に調査を実施したものである。具体的には WCNS の各項目について全国のサンプルにおいて「今の日本の子どもが健康に育つためにどの程度必要か」について訊ねた。本発表では、WCNS のすべての項目について、人々は「必要である」と考えているか、また、「必要ではない」と考えられている項目 (およびカテゴリー) は何かについて検討する。

方 法

調査会社 (マクロミル) を利用して Web 調査を行った。

【調査協力者】 全国の 20 歳から 60 代の男女 1000 名。年齢、性別、居住地域については人口動態に合わせてサンプリングを行った。協力者の属性は以下のとおりである。性別: 男性 499 名, 女性 501 名, 世代: 20 代 159 名, 30 代 216 名, 40 代 202 名, 50 代 199 名, 60 代 224 名, 在住地域: 北海道 43 名, 東北 72 名, 関東 341 名, 中部 182 名, 近畿 162 名, 中国 57 名, 四国 32 名, 九州 111 名, 婚姻状態: 未婚 272 名, 結婚 (または, 事実婚) 647 名, 離婚 59 名, 死別 22 名, 子どもの有無: 子どもなし 376 名・子どもあり 624 名

【調査内容】 ①WCNS 最終版 12 領域 44 項目 (「ぜひ必要である」から「必要ではない」の 4 段階評定), ②社会的地位: 最終学歴, 職業, ③家族形態: 婚姻状態, 子的人数 (0 人~5 人以上) および長子・末子の年齢, ④経済状況: 主観的経済

状況 (5 段階評定), 家族の年収。なお, ②と④は合成変数としての社会経済的状況 (SES) 得点の算出に用いた。

結 果

各項目について 4 段階評定を求めた度数分布を Table 1 に示した (サンプル数は 1000 人で欠損値はないため度数を 100 で除するとパーセンテージとなる)。90%以上の人が「ぜひ必要である」および「必要である」とした項目は 33 項目, 80%以上の場合は 40 項目であった。しかし, 「ぜひ必要である」のみに絞ると, 50%以上の人が「ぜひ必要」と認識していたのは 9 項目のみであった。また, 10%以上の人が「あまり必要でない」および「必要ではない」と答えた項目は 11 項目であった。

Table 1 WCNS の項目と度数分布

N=1000					
		必要 ない	あまり 必要 ない	必要 あり	ぜ ひ 必 要
1	離乳食を終えたら、1日3回は食事をする	18	101	557	324
2	食 食 魚、肉、野菜などのバランスのとれた食事をする	13	11	458	518
3	家では一緒に食事をする大人がいる	9	36	532	423
4	毎日、肌着や下着をどかえる	14	43	466	477
5	歯が生えたら、1日1回は歯みがきをする	14	14	444	528
6	食事前の手に洗う(または、手をふく)	11	23	479	487
7	衛生 決められた(定期)予防注射を受ける	14	53	498	435
8	決められた乳幼児健診を受ける	14	20	500	466
9	具合が悪くなったら、医者にかかる	12	67	536	385
10	ひとりの子どもにつき清潔な下着が5枚はある	12	118	566	304
11	衣服 ひとりの子どもにつき洋服が合計5枚はある	17	153	558	272
12	歩くようになったら、足に合う靴を持っている	12	29	518	441
13	家に2部屋はある	34	188	539	239
14	住まい 自分の家にトイレがある	14	15	595	576
15	自分の家に風呂がある	15	39	426	520
16	子どもを可愛がる大人がいる	14	15	374	597
17	子どもが望めば抱っこする大人がいる	13	82	442	463
18	子どもの話を聞く大人がいる	13	13	380	594
19	愛情 子どもをなだめる大人がいる	12	42	469	477
20	子どもの誕生日を祝う	20	46	466	468
21	体を動かす遊びと一緒にする大人がいる	13	34	490	463
22	病気の時に子どもの世話をする大人がいる	13	8	340	639
23	用事ができた時に、子どもの世話をする大人がいる	6	45	626	323
24	夜間に面倒をみる大人がいる	5	55	514	426
25	ぬいぐるみや人形(フィギュアを含む)がある	29	382	510	79
26	玩具 子ども用の本が10冊はある	17	208	595	180
27	と本 積み木やブロックがある	14	122	673	191
28	絵を描く道具(クレヨン、色鉛筆など)がある	8	89	690	213
29	子どもにものごとの善悪を教える大人がいる	8	19	378	595
30	トイレ・トレーニングをする大人がいる	8	72	523	397
31	教育 子どもにことばを教える大人がいる	7	56	487	450
32	本の読み聞かせをする大人がいる	9	49	532	410
33	一緒に遊ぶ友だちがいる	6	22	491	481
34	他者 近所に声をかけてくれる大人がいる	9	63	593	335
35	週に1度は、大人と外出(散歩や買い物など)する	15	140	565	280
36	外出 年に2回は、大人と行楽地(動物園、遊園地など)に行く	25	297	522	156
37	旅行 年に1度は、大人と泊まりがけの旅(帰省を含む)をする	41	404	432	123
38	経済 子どもの生活費を稼ぐ人がある	6	15	345	634
39	経済的に困った時には、国・自治体が助けてくれる	11	64	516	409
40	希望すれば、通園できる保育園や幼稚園がある	8	22	521	449
41	施設の 家の近くに子どもが行く公共の施設(図書館、児童館など)がある	10	96	602	292
42	環境 家のまわりの空気が汚染されていない	10	23	488	479
43	家の近くに公園や遊び場がある	7	40	558	395
44	家の近くに医院や病院がある	9	36	532	423